

営農ウィークリーNEWS

令和元年度乙訓農業大会盛大に開催！



乙訓地域の農業は、農家と消費者のお互いの顔が見える関係づくりや新しい技術を見据えた産地づくりを進めているところです。本年2月19日、長岡京市立中央公民館において、地域農業の発展にご尽力された功労者を表彰するとともに地域の魅力発信に関わる講演を学びました。



講演は女性が中心となった林業振興のモデルとも言える内容で、京都府林業研究グループ連絡協議会女性部「樹々の会」代表の一瀬裕子様からして頂きました。ファンを作りリピーターになって貰う、そして生きがいや喜びを持てると貴重な意義あるお話でした。

受賞者及び登録者の方々は以下のとおりです。受賞おめでとうございます。(敬称略)

◇乙訓農林業功労者

向日市 安田忠和、植田勝、立口利治
長岡京市 宇津恵造、大山崎町 西村淳子

◇京都府農山漁村伝承技能登録者

向日市 長谷川秀和、長岡京市 藤井俊一
大山崎町 平井章司

◇京都府農林水産業功労者表彰

向日市 堀池清治、長岡京市 森田啓史



—TAC information—

京都市立向島小学校で、茶香服開催！



茶香服の説明を熱心に聴く生徒



見本のお茶

2月20日(木)向島茶業部が、京都市立向島小学校の生徒を対象に茶香服を開催しました。地域特産物であるお茶についての理解を深める為、食育の一環として開催されました。茶香服とは、玉露二種・煎茶三種を用い、それぞれの茶に「花・鳥・風・月・客」と名前を付けて、五種類飲み、これを5回繰り返してその合計点数を競います。今回は、生徒にお茶の香りや味を比べてもらうために、玉露・碾茶・煎茶・玄米茶・焙じ茶の五種類を飲み、これを2回繰り返しました。生徒は、「甘い」「渋い」「香ばしい香り」などと、お茶の香りや味をしっかりと味わっていました。

塩水選と種子消毒

1 塩水選

1) 食塩水で塩水選を行う。

	比重	水 (ℓ)	食塩の量 (kg)
うるち	1.13	10	2.0
もち	1.08	10	1.2

2) 塩水選後は水洗いを行う。

2 種子消毒

1) 消毒液の作成

イネシンガレセンチュウと同時防除をする場合は、殺菌剤の希釈水量にスミチオン乳剤を1000倍になるよう混用液をつくり浸漬する。

※殺菌剤テクリードCとの混用液の作り方(例)[種もみと同容量以上の水量(1:1以上)にする]

種もみ	水量	殺菌剤		殺虫剤
		テクリードC	倍率	スミチオン乳剤
3kg(6ℓ)の場合	6ℓ	30cc	200	6ccを左の200倍液に加え1000倍とする。
5kg(10ℓ)の場合	10ℓ	50cc	200	10ccを左の200倍液に加え1000倍とする。

2) 浸漬(24時間)

消毒液は10~15℃の範囲で行う。

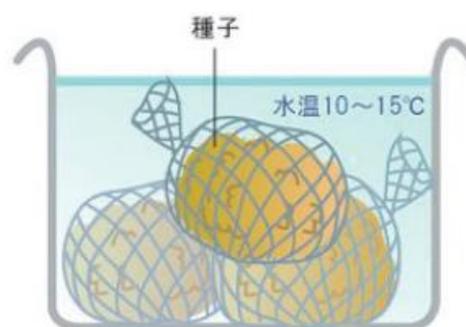
種もみは網目の袋に入れ、浸漬中に1~2回上下入れ替えを行い、よく攪拌を行う。

※消毒液は、5回程度は連続して使用ができる。

3) 消毒液の水切り

もみを取り出し、自然落水で水切りを行う。

4) 風乾処理はしなくてもよい。



(図 みんなの農業広場より)

3 種子の浸漬(芽出し)

1) 消毒した種もみを種もみの量の2倍程度の水に浸漬する。3~4日目で水を1度交換する。

2) 15℃で7日程度、20℃で5日程度でハト胸状態となる。幼芽が1ミリ以内で播種を行う。



(図 みんなの農業広場より)